

## 第 34 回 100 年史誌部会議事録

日時： 2009 年 2 月 24 日（火） 16 時 00 分～17 時 10 分

場所： 管理棟 2 階第一応接室

出席者： 横山部会長、松田、栗野、大町、奥山、神戸、山崎、小山、高畑、鈴木、片山各委員、小室編集局員、斎藤編集補助員、細谷氏（ぎょうせい）

欠席者： 金子、小池、各委員

### 【配付資料】

[資料 34-1] 「大学史通じ「居場所探し」」 新聞記事抜粋（山崎委員）

[資料 34-2-1] 地域活性化のための「近代化産業遺産群」の取りまとめと趣旨、他（栗野委員）

[資料 34-2-2] 経済産業省「近代化産業遺産ストーリー 33」（2007 年 11 月 30 日）から（栗野委員）

[資料 34-3] 100 周年記念誌（Journal）第 34 回部会議題（7 枚）（松田 J 班長）

[資料 34-4] 山大工学部 100 周年記念誌ジャーナルスケジュール表(21.2.24)（ぎょうせい）

[資料 34-5] 今月の話題 一創立記念事業の思い出一（鈴木清一委員）

[資料 34-6] 山形大学工学部百年史執筆要項（3 枚）（小室編集局員）

### I) 報告および連絡事項

1. 山崎委員から[資料 34-1]に基づき大学史編纂や自校教育が与える効果について紹介があった。
2. 栗野委員から国指定重要文化財でもある「旧米沢高等工業学校本館」が近代化産業遺産に指定された旨、報告があった。また経済産業省の「近代化産業遺産ストーリー 33」にて、日本国内で初の人絹製造が米沢でなされた記事が掲載されている旨、紹介があった。
3. 今月の話題について工業会の山崎氏から寄稿があり、長文であるため、3 回に分けて掲載する旨連絡があった。従って、部会員による執筆は 3 ヶ月先送りになる。

### II) 協議事項

#### 1. 100 周年記念誌

##### ① 「百人の声」原稿執筆依頼の件

- ・ 資料 34-3 の 1 ページについて、本田氏は辞退。大坪先生、大友先生原稿はまだ届いていない。事務・青木元職員には先行依頼では無く 3 月の依頼とする。
- ・ 3 月末に原稿を集めるという計画で引き続き各委員に協力いただきたい。
- ・ 大町委員から機械システム工学科の「百人の声」原稿執筆依頼予定者リスト(資料 34-3 の 3 ページ)の人選について、思いつくまま 10 名ほど、教員、職員、卒業生、現職、退職者、OB などから選択した、と説明があった。
- ・ 松田班長から提出された機械システム工学科のリスト(資料 34-3 の 4 ページ)は、企業の人を多く選択した他、住職やホテルの料理人の方など職業的にも幅広く選択したとの説明があった。また工学部として依頼したい方々のリスト(資料 34-3 の 4 ページの次)も作成した。その中には寅さんシリーズの助監督をされた脚本家・高橋正圀さんや姫路工業大学の鈴木

道隆先生などを挙げている。

- ・ 神戸委員から提出された原稿執筆依頼予定者リスト(資料 34-3 の 6 ページ)は、仕事や就職関係の方などからの人脈を辿った結果、生体センシング以外の方も含まれているなどの説明があった。例えば鮭川高校の校長先生が大学 OB で工学部の助手であった、などの情報も得られているとの報告があった。
- ・ 最後に松田班長から、各系から推薦された方々と工学部として執筆依頼したい方々との調整をおこなう必要があるので、なるべく早く依頼者リストを作成して、J 班まで提出して欲しい旨、要望が出された。

## ② 記念誌に掲載する具体的事例の選定の件

- ・ 研究に関して、神戸委員から資料 34-3 の 5 ページに従って説明があった。
- ・ 神戸案に対して横山部会長からひとつの雛型として活用したいとのコメントがあった。また、(2)の米織に関しては栗野委員に考えて頂くよう依頼があった。
- ・ 松田委員から学科会議などで議案として提案していただき、アイデアを募集して欲しい旨、要望が出された。
- ・ 小室編集局員から、各系からアイデアを出して頂き、次回の部会で検討したい旨、提案が出された。

## ③ 記念誌進捗状況

- ・ 細谷氏から資料 34-4 に基づき、記念誌の進捗状況について報告があった。
- ・ 2 月 13 日と 14 日に「【特集 1】 四つの象限と工学的風土」について取材と撮影を行った。紅花染めの織物新田の取材を行った。雪灯籠祭の撮影を行い、東山研の研究成果を活用した青い光を点す雪灯籠の撮影を行った。この事例は大学と地域との結びつきの結果のひとつである。また当日、北国の染織三人展が開催されており、米織卸業者である平山氏のインタビューを行った。【特集 1】に関して、9 割方取材が完了した。これから他のブロックの制作に進んでいくとの報告があった。
- ・ 今後の予定として今年の 12 月に印刷データを完成させる予定で作業を進める。
- ・ 大学の取材を行わなければならないものをスケジュール表中の網掛けで示した。【特集 1】に加え、【話題】現代山形大学事情、【寄稿】百人の声、【未来へ送る言葉】社会のための工学、工学のための社会について、の四つのパートは大学の動きに合わせてぎょうせいが動く形になる。【特集 1】と【話題】について掲載対象の選定を行って欲しい旨、要望が出された。
- ・ 【特集 2】として米沢工業会の話題を提案する。このパートの原稿作成について、当初は 10 ページを工業会に預けて書いて頂こうと考えたが、10 ページというのは難しいだろうか? 進め方について相談したい、とのことであった。この時点で山崎委員が退室していたので、後日相談することとした。
- ・ 「百人の声」に関して原稿が集まりにくい状況があると考えている。募集の掛け方や時期など、原稿が集まりやすいやり方を考える必要がある、とのコメントが出された。
- ・ 松田班長からは「百人の声」のテーマ例からが敷居が高いイメージがある。もうすこし平易な文章例の提案の要望が出された。
- ・ また、松田班長から「百人の声」について、卒業年の表記を「年」か「年度」かに統一したいとの意見が出され「年」に統一することとした。

- ・ また、記念誌の目次を工業会誌に掲載したが英単語や文法の単純なミスがあるとの指摘があった。工学部長からも同様の指摘があった。

## 2. 百年史

### ① 「今月の話題」(2月度)

- ・ 鈴木委員から医学部在籍時代に医学部創立 30 周年記念誌の制作に携わった経験をもとに 2 月の「今月の話題」の執筆を行った旨、報告があった。

### ② 通史、部局史の執筆要項について

- ・ 小室編集委員から山形大学工学部百年史執筆要項(資料 34-6)に関する説明があった。
- ・ この執筆規定は 50 年史の執筆要項などを参考に必要な事項を追加して作成した。
- ・ 主な注意点として、数字は基本的にアラビア数字を用いる。1 桁の数字は全角で、2 桁以上の数字は半角で表記する。年号は基本的には西暦とし、後ろに括弧書きで和暦を表記する。また差別用語の書き換え例を記載したので参考にされたい。
- ・ この執筆要項の利用形態として、まずは各委員が執筆者に執筆依頼する際に、執筆者に送っていただきたい。もしくは、執筆者の連絡先を編集局に連絡すれば、編集局から執筆者に送付する。更に、web site にも置いておき、随時参照できるようにしておく。内容は常に見直し、不具合、追加すべきことがあったら順次修正する。
- ・ 表紙の右上の日付の年数が平成 24 年となっている → 平成 21 年に修正する。

## III) 次回部会について

次回は、3月24日(火)16時から17時まで、第二応接室で開催する。

(2009年3月19日)